

令和3年度 学 校 評 価 シ ー ト

めざす学校像 育てたい生徒像	社会生活を営む上で必要な基礎的・基本的な生活習慣、学力の定着を図り、自立した社会人を育成する。
本年度の重点目標	1 基本的な生活習慣の確立
(学校の課題に即し、精選した上で、具体的かつ明確に記入する)	2 社会生活を営む上で必要な基礎的・基本的な学力の定着を図る
	3 将来の生き方在り方を見つめ、未来を切り開く力を養い、自立した社会人を育成する
	4 自他の生命と人権の尊重

学校名: 日高高等学校 定時制課程 学校長名 : 村岡 宏起		
目 標	○個々の特性を把握し、個人面談、三者面談を行い、不登校や怠惰による欠席について、早期から支援を行う ○安全、安心な学校作りのため、「いじめアンケート」「面談」「校内巡視」により、いじめの早期防止、早期発見に努める ○自己の進路実現のために三者面談等を行い、必要な情報を提供し 学校・保護者・専門機関・地域が一丸となった指導を展開する	達成度
学校評価の結果と改善方策の公表の方法	○ホームページを活用し広く公表していく	

(注) 1 重点目標は3～4つ程度設定し、それらに対応した評価項目を設定する。 2 番号欄には、重点目標の番号を記入する。 3 評価項目に対応した具体的取組と評価指標を設定する。
4 年度評価は、年度末(3月)に実施した結果を記載する。 5 学校関係者評価は、自己評価の結果を踏まえて評価を行う。

自 己 評 価							
重 点 目 標					年 度 評 価 (3 月 2 4 日 現 在)		
番号	現状と課題	評価項目	具体的取組	評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善方策
重点目標 1	○中学校時代に不登校を経験した生徒が多く生活のリズムが崩れ、基本的な生活習慣が身につかず入学してくる生徒がいる。社会で生き抜くためルールを身につけさせる取組が必要である。生徒の生育歴等も把握したうえで、計画的に指導・支援を行うことが必要である。	○生徒・保護者が理解したうえで基本的な生活習慣を身につけさせるための指導・支援が行われているか。 ○個々の生徒の生活実態に応じた指導を教職員が共通認識を持っておこなわれているか。	○登校時などにおける挨拶の励行、遅刻、早退、欠課、欠席等の連絡の徹底。 ○怠学生徒減少への取組と原因の追及。 ○不登校生徒減少への支援体制の充実。 ○休・退学の減少に向けた家庭連絡や個人面談の実施と必要に応じて外部機関との連携を図る。	○登校時の挨拶や時間を守ることの徹底。家庭への連絡を密にして連携して行うことができたか。 ○スクールカウンセラーや外部機関の教育相談活動を充実し、一定の改善がみられたを定期的に行い、指導・支援の見直しをおこなう。 ○生徒・保護者との十分な面談を行い共通認識を得て指導できたか。	○在籍する生徒の約7割が、小学校もしくは中学校時代に不登校を経験している。毎日の登下校時の挨拶やちょっとしたコミュニケーションをきっかけに、生活習慣等が改善され不登校を克服する生徒もあり、教職員の粘り強い取組とスクールカウンセラー等との連携による効果が [＊] 現れている。	A	○引き続き、生徒一人ひとりの特性や生育歴を含めた理解と支援が必要であり、教職員があらゆる側面から積極的に生徒にアプローチし、スクールカウンセラー等とも連携しながら支援を広げていく必要がある。 ○教育相談の観点から生徒への指導・支援を行うために、情報共有と現職教育を行う。
重点目標 2	○小中学校での不登校経験や心因性課題を起因とし、義務教育レベルの基礎的な学力も定着していない生徒がいる。生徒が特に苦手と感じる英語と数学で少人数授業を実施し、基礎学力の定着を目指しているが、生徒の学びに対する意欲は低く、十分発揮できていない状況である。 ○生徒の学ぶ意欲を引き出し自主学習能力を引き出すために、さらに教材研究を深め、授業改善に向けての工夫を進めていくことが重要である。	○「和歌山のわかる授業作り基礎」の現職教育を行い、本校生徒の学ぶ意欲を引き出すための働きかけや興味・関心を引き出す教材づくりに取り組み、わかる授業の実施を心がけ生徒が自ら学ぶ姿勢をもって授業に取り組めたか。	○生徒の学ぶ意欲を引き出すための働きかけや個々の学習状況等を観察する。 ○研究授業や公開授業の実施。 ○生徒による授業評価の効率的な実施及び活用の検討。 ○基礎学力の定着を目指し、学力低下による休退学の減少に向けた学習補充や個人面談の実施。 ○家庭との連携を密にし、学習状況や成績の情報共有を図り、家庭の協力も得る。	○定期的な授業見学及び生徒へのアンケートの実施。 ○研究授業の実施。 ○生徒による授業評価が改善につながっているか。 ○学習状況等、教員間での情報共有がされているか。 ○各教科横断的な取り組みが行われるように共通認識を図る。	○生徒からの授業評価はおおむね良好であった。 ○I C Tを利用し、視覚的にイメージし理解しやすい授業に取り組む一方、英語・数学の習熟度別授業により、学び直しを意識した、生徒一人ひとりに寄り添った指導をすることが出来た。 ○各教科等の生徒の学習状況について頻繁に情報共有が行われ、独自教材の作成や授業の進行方法に反映させることができた。 ○どの生徒もおおむね意欲的に授業に取り組めるようになった。	A	○小学校・中学校時代には不登校により学校での学習時間が少なく、学習習慣等も身につかないまま入学してくる生徒が多い。引き続き、学び直しと反復学習による基礎学力の定着に向けた取組を進めていきたい。 ○習熟度別学習や少人数であることの特性を活かし、生徒一人ひとりに合わせたさらにきめ細やかな支援を行う。検定や資格の取得にもチャレンジすることで成功体験を積ませたい。 ○コロナ禍により研究授業や授業参観が出来なかった。教職員のスキルアップのために実施していきたい。
重点目標 3	○卒業年度においても、進路についての意識が低い状況であり、令和2年度は就職者がなく、進路意識の早期確立とその実現に向けた目標設定をさせることが必要である。 ○1年生、2年生から進路を意識付けけるようなLHRの実施。	○勤労観・職業観を高め、新規就職率を高めるための取組がなされたか。 ○生徒の自己実現に向けた取組がなされているか。 ○生徒や保護者が必要な情報を提供できたか。	○進路HRの充実。 ○個人面談の実施及び面接指導充実。 ○新規求人企業の開拓及び関係機関との連携。 ○進路指導の一環として、2年生より一般教養の問題集を用いた学習を取り入れる。	○応募前職場見学の実施。 ○外部講師による講話。 ○新規就職率の向上。 ○地元企業訪問の実施。 ○関係機関との連携。	○総合的な探究の時間の取組や進路ガイダンス、各授業時間等教育活動全般を通じて進路意識の高揚に努めた。生徒は応募前職場見学にも積極的に参加し、学校紹介による就職内定者が3名、指定校推薦による専門学校進学者が1名、となっている。 ○運転免許取得のサポートも行った。	B	○就業意識が低く将来への展望を持っていない生徒が多く、キャリア教育の観点から、あらゆる機会を通して進路意識の高揚に努め、本校教育振興会や同窓会と協力し、企業見学や職場体験等で働くことの実際を見たり、体験したり出来る機会を持てる取組をしたい。
重点目標 4	○将来、南海トラフ地震が起こる事が予想されており、まず自分を守るための行動がとれるように学習・訓練を行い、他者の生命を守るための技能を養う。 ○素直な生徒が多いが、いじめや外国人差別、さまざまな問題が注目されているが、生徒の人権意識は低く、社会人として必要な人権意識を涵養する。	○地震が起きた時の行動・判断ができるようになるか。 ○地震のあとの津波に備えて行動することができるか。 ○社会で問題になっている人権問題を生徒に気づかせることができたか。	○地震、津波の避難訓練実施。 ○起震車による大地震体験。 ○SNS利用に関する講話の実施。 ○人権LHRでの、人権講話、や社会人として必要な人権意識の涵養。	○交通安全意識調査のためのアンケートの実施。 ○いじめに関するアンケートの実施。 ○さまざまな人権問題を意識することができたか。また、問題解決の手段を自ら考え表現することができるようになったか。	○今年度は、起震車による大地震体験以外は、防災関係の行事や交通安全等に関する取組は全て実施できた。生徒は真剣に訓練等に参加し、防災意識も高まった。 ○いじめアンケートを3回実施し、いづれもいじめの事案は認められなかった。また人権LHR等を通じて、様々な人権問題を考える機会を持つことが出来た。	B	○防災関連の訓練や啓発については引き続き実施すべきである。 ○I C T機器の普及により、スマートフォン等による人権侵害や、犯罪に巻き込まれる問題が発生することが予想される。情報モラルや消費者教育等について実施することにより、自分自身で判断する力を醸成したい。

学 校 関 係 者 評 価
令和 4 年 3 月 1 日 実施
学校関係者からの意見・要望・評価等
○昨今は家庭に居場所が無い子供も多く見受けられます。学校や地域に新しい居場所を見出し、明るく一歩踏み出すことが出来れば、子供達自身が未来をつかみ取ることが出来ると思います。
○登校時の挨拶の取組が功をなして、職員の方々と生徒さん相互の会話が増えてきたことは素晴らしい実績だと感じました。対人関係に課題を抱える若者たちが社会に出るまでに、充実した高校生活を過ごすきっかけとなることと思いました。また、授業参観での教室の雰囲気や進路決定への取組を含め、さらなる育ちを応援している学校であることが解りました。
○先生方が生徒の立場に立って、出来るだけ馴染みやすいように、自分を表に出せるよう配慮していただいていることに感謝します。魅力ある日高高校をアピールできるよう活動していつてはどうか。
○玄関で先生と話をすることは、生徒が登校するエネルギーになっている。
○誰かが待ってくれているという生徒の頼りになることや、コミュニケーションをとることは大切。素直で何でもやってみようという向上心のある子は伸びる。
○生徒の自己肯定感が低いように感じる。夕方から登校するだけでも強い精神力が必要。もう行かなくてもいいのではないかという気持ちに打ち勝って、休まず登校していることは褒めてあげたい。
○定時制の特長を活かして先生方が生徒一人ひとりに寄り添った指導をし、個別の対応が行き届いている。
外部による学校評価については、どの項目もおおむね良好であった。